

卒業研究「学校におけるプロジェクションマッピングの活用」実践計画2

宮城教育大学 情報・ものづくりコース4年 藤原達央

活動場所・対象 八軒中学校美術部

1. 今回の活動目的

展示に向けて、作品の制作を進める。

2. 活動内容

活動の流れ	活動における留意事項
<p>1. オブジェクトの作成。 各々で考えたオブジェクトの作成をする。 テーマとしては模様替えなので、家具を推奨するが、その限りではない。基本的にはダンボールを使って形を作り、それに白の模造紙を貼り付ける。</p> <p>2. 映像作品の作成 オブジェクトに投影する映像作品の作成。 アプリに最初から入っている画像も使えるが、自分たちで描いた作品をアプリ内に取り込むことも可能。</p>	<p>1. プロジェクタの台数などの問題から、グループ（四、五人）で一つのオブジェクトを作成。最低条件として、人数分の”面”を用意し、一人一人が最低一つの面を担当するようにする。材料は調達しやすいダンボールを検討中。表面に貼る模造紙の色や種類などは要相談。白の方が投影する映像が見えやすいが、それにしなければいけないということもない。</p> <p>2. 先にアプリでオブジェクトに対する映像投影の形作りをさせておくことで、画像を投影させることを意識させ、アプリの画面内で作品を仕上げるのではなく、オブジェクトに合わせて投影させることが目的だということを伝える。オブジェクトに投影させる画像については、基本的に児童に描かせたい。児童が描いた絵をアプリに読み込んで投影させることができるので、それも有効に使いたい。アプリ上でタップした際に表示される映像も作成するので、最低限で一人につき2枚作成してもらおう。</p>

3. 準備物

- ・iPad：20台（ダイナマッパーがインストールされたもの）
- ・プロジェクタ：グループ一つにつき1台
- ・ダンボールや模造紙等、オブジェクト作成に必要な材料や道具：必要数
- ・プロジェクタとiPadの接続環境：有線または無線の器具、プロジェクタの台数に合わせて
- ・スケッチブック等絵を描くのに必要なもの：人数分